

群 教 セ	G02-02
	平14.205集

社会的事象の意味や働きを 多面的にとらえる指導の工夫

— 調べたことから考える活動を通して —

長期研修員 佐藤 明

I 主題設定の理由

現在の社会科の授業を振り返ると、子供たちは例えば「つかむ・調べる・まとめる」という流れで学習を進めていくことができるようになってきている。もの作りや作業等の体験的・経験的な学習、調査・聞き取り活動にも非常に意欲的である。また、自分の設定した学習課題について自分なりの方法で調べ、分かったことを堂々と発表する力も付いてきていると感じる。その中で自分で調べられたという満足感、人に伝えられたという達成感を味わえるようになってきた。

ただ、子供たちは社会的事象の意味や働きに対して、自分の調べたいと思った学習課題を追究していくことで満足してしまうことが多い。仲間の発表に対しても声の大きさや分かりやすさに気を取られ、仲間が追究してきたことの内容や、自分の追究してきたこととの関係を考えてながら聞ける子は多くはない。つまり、社会的事象の意味や働きを一面的なとらえで学習を終えてしまうのである。

その原因を指導の面から考えてみると、まず、体験や調べ活動を積極的に取り入れることが目的化したり、それに多くの時間をかけすぎて体験や調べ活動から社会的事象の意味や働きを考えることをあまりしてこなかったことが挙げられる。また、学び方の指導に重点を置きすぎ、社会的事象に見られる様々な事実を比較して考えたり、関連付けて考えたりするという社会科でこそ身に付けるべき考え方の指導が十分ではなかったことも原因の一つである。

そこで、学び方の習熟や、調べたことを発表するという活動のもたらすプラス面は今後も生かしていく一方で、子供たちが様々な学習課題に分かれて調べ活動を行った後、調べたことか

ら考える活動をしっかり学習計画の中に位置付けて指導していくことが大切だと考えた。具体的には、問題解決的な学習過程の「調べる段階」に調べて分かった事実や、事実に対する考えを紹介し合う活動、「まとめる段階」に自分の学習課題と他の学習課題とを線で結び、結び付けた理由を考える話し合い活動、さらに「深める段階」には関連付けた追究結果から得た知識の裏付けを基にして、取り上げる社会的事象の将来像を考えて発表する活動を取り入れたい。このような、調べたことから考える活動を取り入れることにより、個々の独立した追究結果が意味や働きの面で結び付き、結び付けた知識の裏付けをもとに追究結果を再構成することで、社会的事象の意味や働きを一面的でなく、自ら多面的にとらえていけると考えた。

以上のように、問題解決的な学習過程に、調べたことから考える活動を取り入れることにより、社会的事象の意味や働きを多面的にとらえる児童を育てたいと考え、本研究を進めることにした。

II 研究のねらい

社会的事象の意味や働きを多面的にとらえる児童を育成するために、問題解決的な学習過程に、調べたことから考える活動を取り入れることが有効であることを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

調べたことから考える活動を問題解決的な学習過程において展開すれば、社会的事象の意味や働きを多面的にとらえる児童が育つだろう。

- 1 調べる段階で、調べて分かった事実や、事実に対する考えを互いに紹介し合う活動を取り入れれば、自分の追究結果と他の追究結果とを比較して考えることができ、お互いの学習課題についての知識や追究の視点を共有化できるだろう。
- 2 まとめる段階で、自分の学習課題と他の学習課題とを線で結び、結び付けた理由を考える話し合い活動を取り入れれば、自分の追究結果と他の追究結果を意味や働きの面から関連付けて考えることができ、個々の独立した学習課題同士の関係に気付くだろう。
- 3 深める段階で、関連付けた追究結果から得た知識の裏付けを基にして、取り上げる社会的事象の将来像を考えて発表する活動を取り入れれば、調べて考えたことを再構成することができ、社会的事象の意味や働きを多面的にとらえられるだろう。

IV 研究の内容と方法

1 研究の内容

本研究では、問題解決的な学習過程で、調べたことから考える活動を通して、社会的事象の意味や働きを多面的にとらえる児童の育成を目指している。

(1) 社会的事象の意味や働きを多面的にとらえる児童とは

社会的事象とは社会科で子供たちが観察し、理解し、説明する対象となるもののことである。そして、社会的事象に込められた人々の意図や目的、願い、工夫や努力、さらには社会に与える影響や役割を、社会的事象の意味や働きであるととらえた。

「つかむ段階」で同じ社会的事象から学習課題（面）を見いだす以上、見いだした複数の面は意味や働きの点で関係し合っている。だから、社会的事象の意味や働きを一層的確にとらえ、事象や課題を公正に見たり判断したりするためには自分の調べたい面からの一面的な追究で終わるのではなく、多くの面の存在とその意味や働きを知り、面同士の結び付きをとらえること

が必要である。さらに、取り上げる社会的事象の将来像を考える活動を通して、関連付けた多くの面の中から自ら必要な情報を選び出し再構成することで初めて自分なりのとらえとなる。そうなったときに社会的事象の意味や働きを多面的にとらえられたと言えると考えた。

つまり、社会的事象の意味や働きを多面的にとらえる児童とは、社会的事象から特徴となる複数の面を見だし、自分の調べたい面（子供にとっては学習課題）の追究で終わるのではなく、自分の追究結果と他の多くの面（中間の追究結果）とを比較したり関連付けたりして相互の結び付きに気付き、結び付けた多くの面を自ら再構成できる児童である。

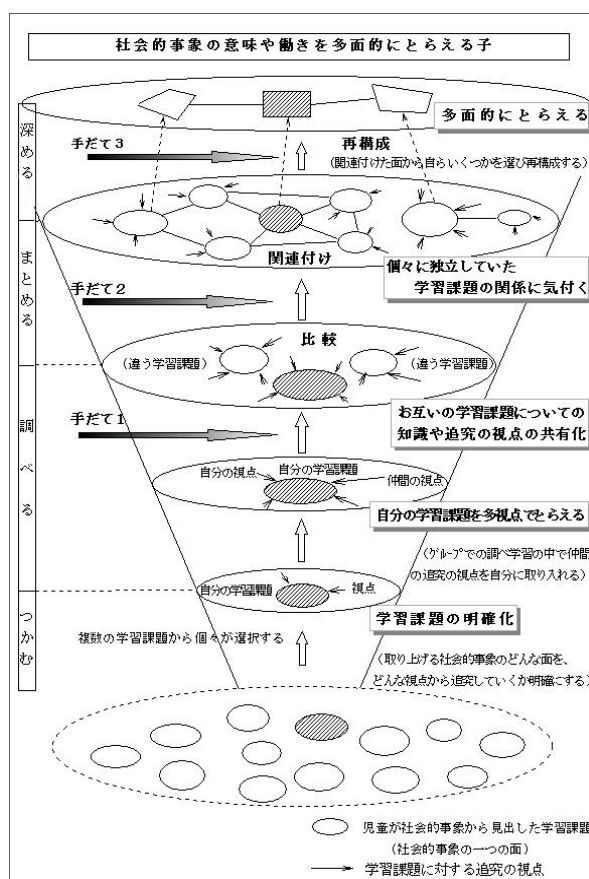


図1 研究の基本構想図

(2) 調べたことから考える活動とは

調べたことから考える活動とは、調べ活動の過程で複数存在する児童の学習課題（追究結果）を比較したり、関連付けたり、再構成したりする活動である。

見通し1の「調べて分かった事実や、事実

対する考えを互いに紹介し合う活動」であるが、これは、自分の追究結果と他の追究結果とを比較して考えるために行うものである。追究結果を紹介し合うとき、子供たちの思考は自分の追究結果と他の追究結果を比較している状態にある。お互いの追究結果を比較しているということを子供たちが意識できるように、自分の追究結果と仲間の追究結果に共通することがあるかどうか、関係しているところがあるかどうかを考えながら聞くようにする。この比較して考える活動を通して、お互いの学習課題についての知識や追究の視点を互いに共有化できると考える。また、ここでいう追究の視点とは、学習課題をどのような角度から調べるかという視点のことである。「□□さんが〇〇という事実を調べられたのは、△△に目を付けたからだ。」というように、仲間の追究の視点にも目を向けられるように学習プリントを工夫していく。

見通し2の「自分の学習課題と他の学習課題とを線で結び、結び付けた理由を考える話合い活動」であるが、これは、自分の追究結果と他の追究結果を関連付けて考えるために行うものである。見通し1の段階では互いの追究結果を紹介し合い、知識と追究の視点を共有化しただけである。児童は学習課題同士の意味や働きの面からの結び付きや関連性についてまではっきりと気付いていない。そこで、学習課題同士で関係がありそうなものを線で結んだり、結んだ理由を考えるという社会的事象の意味や働きの面からの関連に着目した話合いを行うことにより、学習課題同士の関係に気付くと考える。

見通し3の「関連付けた追究結果から得た知識の裏付けを基にして、取り上げる社会的事象の将来像を考えて発表する活動」は、見通し2の段階で得た「関連付けた追究結果から得た知識の裏付け」、すなわち、互いの追究結果同士で意味や働きの面からの関連について考えたことを児童一人一人が再構成するために行うものである。実際には、例えば「将来の〇〇市はどんな市になってほしいか。」ということをして一人一人が考えることで、見通し2で社会的事象の意味や働きの面から結び付けた追究結果（事象の様々な面）からいくつかを自分自身で選び出し、自分の追究に再度結び付けることができる。

この再構成する活動は単なる思いつきで考える活動ではなく、見通し2までの中で培ってきた根拠をもって考える活動である。この再構成する活動を通して、学習する単元の社会的事象の意味や働きを児童が自ら多面的にとらえることができるようになる。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い検証する。

(1) 授業実践計画

教科	社会科
対象	玉村町立玉村小学校4年3組39名
単元	群馬県の自然とくらし（観光に生きる草津町）
期間	平成14年10月上旬～下旬（11時間）
授業者	長期研修員 佐藤 明

(2) 抽出児童

A子	草津町を訪れた経験があり、草津町について目に見える様々な特色を既に印象としてもっている。学習課題を設定したり、意欲的に追究することはできると考えられるので、草津町に見られる様々な面を観光、自然環境という観点から関連付け、実際に見た草津町の印象を基に将来像を考える中で草津町を多面的にとらえるようになってほしい。
B男	草津町という名前は聞いたことがある。具体物、映像、写真資料に強い関心をもつが、自分の学習課題を明確にもてなかつたり、追究も仲間まかせてしまうことがあるので、課題を追究するときは自信をもたせるような個別指導をし、仲間の追究結果との関係に気付くように言葉掛けをしていきたい。

(3) 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	仲間が追究してきた学習課題についての発表から、草津町の別の特色(面)を理解し、仲間がどんな視点かを調べたかが分かったかどうかを、学習プリントの内容分析を通して検証する。	学習プリント(仲間の発表から新たに得た知識や追究の視点、追究結果同士の結び付き、将来像) 授業記録(児童のつぶやき、試行錯誤する思考の流れ)
見通し2	草津町に住む人々は山地や寒冷地という自然環境や温泉を生かして生活を工夫していることを、様々な面から理解できているかどうかを、自分の学習課題と仲間の学習課題とを結び付けた線の数や、結び付けた理由についての記述分析を通して検証する。	
見通し3	草津町の将来像に、これまで学んだ草津町の様々な特色(面)をどれだけ取り入れてあるかどうか、また、それらをどのように結び付けているかを文章記述や絵を分析を通して検証する。	

V 研究の展開

1 単元名「群馬県の自然とくらし

— 観光に生きる草津町—

(学習指導要領3, 4年内容(6)のウとエ)

2 単元の考察

「草津よいとこ葉の温泉」と上毛カルタにうたわれる草津町は、山地で寒冷地という自然環境のもと、日本3名泉である温泉を生かした観光産業で町が成り立つ。町民憲章「歩み入る者にやすらぎを、去りゆく人にしあわせを」や、町役場の電話保留音楽に「草津節」が使われていることなどから、町を挙げて「温泉国際観光地 草津」を宣伝しようとする姿がうかがえる。

草津町では温泉を単に観光目的で利用するだけでなく、草津町民の日常生活にも生かすというよさが見られる。万代抗という高温の源泉(90度以上)を利用し、水を50度程度の温水に換えている。この温水を家庭の生活用水や、道路凍結防止のため地中に埋めた融雪パイプに流す温水、小中学校や福祉センターの施設の暖房、また町営温水プールに利用したりしている。この点で県内の他の温泉地とは温泉水の使われ方の面で大きな違いがある。

平地で、前橋市、高崎市等のベッドタウンとして発展する玉村町に住む子供たちにとって、山地で寒冷地に住む人々の暮らしや第3次産業の中の観光産業について普段考えることがなかなかないことを考えると、草津町を取り上げることは群馬県に対する興味関心を高め、県の特色をつかむためにも有効であると考えられる。

草津町では観光にかかわる特色(面)は多岐にわたる。温泉に結びつくものとして旅館・ホテ

ル、共同浴場、湯畑、温泉水、湯もみ(郷土芸能)、ベルツ博士、姉妹都市、商店(土産物店)、ザスパ草津(サッカーチーム)、自然環境を生かしたものとして草津国際スキー場、ゴルフ場、草津国際音楽アカデミー、白根山等がある。

また、玉村町とは異なる山地のくらしの特徴として、農業(花インゲン等の高原野菜)、学校生活(スキーやジャンプを取り入れた体育の授業)、人々の日常生活の様子が挙げられる。

これら草津町に見られる多くの特色ある社会的事象の中で、一見関連がないと見られる社会的事象、例えばスキー場とゴルフ場(ゴルフ場は冬場はクロスカンリースキーで使用され、職員はスキー場で働く)、温泉と日常生活(温泉水を流すパイプを道路下に埋め、冬の道路凍結を防ぎ、日常生活の安全と利便性に役立つ)、温泉とザスパ草津(2006年にJリーグ入りを目指すサッカーチーム。ユニフォームの背番号上の「草津温泉」のロゴは草津町の宣伝になる。また、選手は草津町内のホテル・旅館等で働く)等を観光やくらしの面での工夫や願いといった社会的事象の意味や働きの面から結び付けることができる。さらに、草津町の将来像を考えるという、草津町について自ら調べてきた裏付けのある知識を子供自身で再構成する活動を通して、草津町の人々のくらしを多面的にとらえ、あわせて群馬県に対する誇りや愛情を育てることができると考える。

3 単元の目標と評価規準

群馬県内で産業や地形から見て特色のある草津町の様子について、地形図や写真、町勢要覧等の資料から調べたり、草津町で働く人から話を聞いたりして、地域(草津町)の特色やよさを様々な面から考えるようにする。				
	ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 観察・資料活用技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	山地で寒冷地、観光地という特色をもつ草津町に住む人々の生活の様子に関心をもち、それを意欲的に調べることを通して、地域社会に対する誇りと愛情をもとうとする。	草津町の人々のくらしについて学習課題を見いだして追究・解決し、人々の生活への工夫、草津町の人々の生活と自然環境・観光産業との関連、国内外の姉妹都市との関連を考え、適切に判断する。	草津町の土地利用の特色を地形図から読み取ったり、観光産業に関する資料を集めたり、様々な仕事に従事する人々へ取材したりして調べ、まとめる。	草津町に住む人々は、山地で寒冷地、温泉という自然環境を生かして生活し、観光を生かした産業に従事しながらくらししていることを理解している。
具体的評価規準	①観光に生きる草津町の人々の生活に関心をもち、温泉、旅館、商店(土産物店)、スキー場、学校生活、日常生活、農作物、姉妹都市等について進んで調べようとする。 ②草津町のもつ独自性やよさに着目し、群馬県に対する誇りと愛情をもとうとする。	①観光に生きる草津町の人々の生活について学習課題を見だし、学習の見通しをもって、自分なりに追究している。 ②調べたことを基に、草津町に住む人々は自然環境や温泉を生かして生活を工夫していることを考え、適切に判断し、学習課題を解決している。	①地形図や写真等の資料から草津町の土地利用の特色や自然環境の特色を読み取れる。 ②草津町の観光施設、役場、住民などから働く人の工夫や努力、生活の工夫などを調査・取れたら具体的調べている。 ③取材、調査した過程や結果を分かりやすく表現している。	①草津町で観光産業が盛んなわけを恵まれた自然環境や働く人の工夫と関連付けて分かる。また、姉妹都市、観光客の集客圏などの例から草津町の観光産業は広く国内外の地域とつながりがあることが分かる。

	関連付けの観点 ・観光(草津町にきてもらうことを目的とする) ・自然環境(山地・寒冷地という地形、気候条件を生かしたくらしの工夫)		地域とつながりがあることが分かったかどうかを、学習課題を結び付ける話合い活動の様子や、学習プリントへの感想の記述を分析することを通して評価する。
深める 2時間	4 草津町の将来像を考え、発表する。(10~11/11) ○草津町の将来像を考える。(10/11) 見通し3 ・こんな草津町であってほしい(なあってほしい)と思うことを絵や文章にまとめる。自分の追究に仲間の追究をなるべく取り入れるように話す。 ○草津町の将来像を仲間同士で紹介し合う。(11/11) 見通し3 ・自分の考えた草津町の将来像を学級の仲間を紹介する(ポスターセッション)。 ・自分たちの考えた草津町の将来像をどうするか話し合う。(取材等でお世話になった各種施設、役場等へお礼をこめて郵送する。)	イ② ア②	・草津町に住む人々は自然環境や温泉を生かして生活を工夫していることを考え、適切に判断しているかどうかを、草津町の将来像に、これまで学んだ草津町の様々な特色(面)をどのように取り入れてあるかどうか、それらをどのように結び付けているかを分析することを通して評価する。 ・草津町のもつ独自性やよさに着目し、群馬県(草津町)に対する誇りと愛情をもとうとしているかどうかを、文章や絵で表された草津町の将来像を分析したり、自分の考えを発表する姿、自分たちで考えた将来像をこのあとどうするかについての発言を通して評価する。

VI 研究の結果と考察

1 調べる段階で、調べて分かった事実や、事実に対する考えを互いに紹介し合う活動を取り入れたことは、自分の追究結果と他の追究結果とを比較して考え、お互いの学習課題についての知識や追究の視点を共有化することに有効であったか

学習課題作りの結果、全部で12の学習課題ができた(表1)。発表は前後半に分けたポスターセッション形式をとり、グループ発表ではなく、一人一人がまとめた作品を聞き手に説明するという個人発表にした。なぜなら同じ学習課題を追究しても、調べた事実や感想は児童によって違うため、学習のまとめと発表も個人で行うべきであると考えたからである。

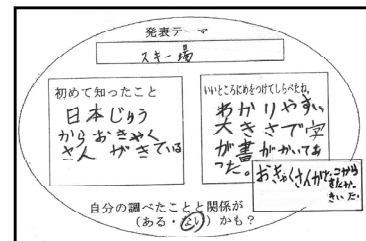
A子は温泉水について調べ、前半に発表した。後半は聞き手となり、まず初めに自分と同じ学習課題を追究した子の発表を聞きに行った。同じ学習課題を調べても、違う内容を発表しているかもしれないからと本人は話していた。続けて「湯もみ」「ホテル」「ゴルフ場」「山地の農業」「スキー場」の順で発表を聞いた(残りの発表については授業時間外に聞いた)。発表を聞きながら、「旅館」「ホテル」「共同浴場」「白根山」「山地の学校生活」「湯もみ」「国際姉妹都市」の7つに、自分の追究結果と関係があるかもしれないと○をつけた。例えば「温泉水」と

表1 学習課題一覧

山地の学校生活	…6人
山地の農業	…2人
ホテル	…4人
旅館	…2人
草津国際スキー場	…2人
草津高原ゴルフ場	…3人
湯もみ	…2人
温泉水	…9人
国際姉妹都市・姉妹温泉	2人
白根山	…3人
共同浴場	…2人
ザスパ草津(サッカー)	…2人

「旅館・ホテル・共同浴場」が関係あるとしたのは、わき出た温泉水の行き先、使われる場所という点から、「白根山」は温泉のわき出る理由という点から、「山地の学校生活」は温泉水の入浴以外の利用目的という点から比較してつながりを考えたからであると思われる。そして、他の学習課題についての知識として「初めて知ったこと」を内容的に正しく記入できた(資料1)。「いいところに目を付けたね」という追究の視点については、当初は「わかりやすい写真があった」「写真に説明がついていてよ

資料1 A子の学習プリント(一部)



かった」等の発表の仕方に目が向いていた。そこで「草津国際スキー場には日本全国からお客さんが来ていることが分かったのは、どんなことをスキー場の人に質問したからかな。」という助言をしたところ、追究の視点の意味を理解し、「いいところにめをつけてしらべたね」という記入欄に「お客さんがどこから来たか」という追究の視点を書き加えられた。これは「集客圏」という視点のよさにA子が気付いたことを意味していると考えられる。

B男は「ホテル」について調べ、前半は聞き手だった。まず「白根山」についての発表を聞きに行き、続いて「スキー場」「ゴルフ場」「温泉水」「ホテル」「ザスパ草津」「山地の学校生活」「旅館」「共同浴場」、再び「温泉水」の発表を聞いた。発表を聞きながら「ザスパ草津」

「温泉水」「白根山」の3つに自分の調べたことと関係があるかもしれないと○をつけた。「ホテル」と「ザスパ草津」はホテルの従業員という点から、「白根山」はホテルの部屋から見える景観という点から、さらに「温泉水」は温泉水の使われ方という点から比較してつながりを考えたからであると思われる。そして他の学習課題についての知識として、11個の学習課題のうち7個について「初めて知ったこと」が内容的に正しく記入されていた(資料2)。「いいところ」に目を付けた

ね」という追究の視点については、4カ所について書かれていた。「スキー場が夏はゴルフをする場所となる」こと

「ゴルフ場は冬はクロスカントリースキーの場所となる」こと、さらに「山地の学校にスキーのジャンプ台があること」が分かったのは「季節」に目を付けたからだ」と記入できていた。また「白根山の熱で地下にたまった水が温められて温泉がわく」ことが分かったのは「温泉のわく理由」に目を付けたからだ」と記入できていた。

学級全体については、学習プリントを分析した結果、児童は自分の追究結果と仲間の追究結果を比較してつながりを考えることができていた。学習プリントの「初めて知ったこと」の欄への記入数の差はあるが、お互いの学習課題についての知識も共有化することができていた。追究の視点については当初20人が正確にその意味をつかみ記入できていたが、A子に対して行ったような追究の視点の意味に気付くための個別指導を行った結果、34人の児童が追究の視点を正しく理解することができた(表2)。知識を共有化できた人数と追究の視点を共有化できた人数が違うのは、仲間の発表を聞く中で追究の視点に気づきながらも、それがすでに自分の中にある場合は、よさとして学習プリントに書かない児童がいたためである。

以上のように、調べて分かった事実や、事実に対する考えを互いに紹介し合う活動を取り入

表2 知識と追究の視点の共有化

プリントに記入できた数 (「初めて知ったこと」欄)	知識を共有化 できた人数	そのうち、追究の視点を一 つでも共有化できた人数
11個	12人	11人
10個	10人	10人
9個	6人	5人
8個	4人	4人
7個	3人	3人
6個	1人	1人
5個	2人	0人
4個	0人	0人
3個	1人	0人

計39人 34人

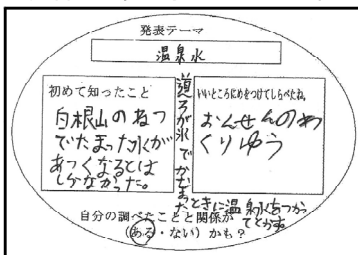
れたことで、自分の追究結果と他の追究結果とを比較して考え、お互いの学習課題についての知識や追究の視点を共有化することができたと考えられる。

2 まとめる段階で、自分の学習課題と他の学習課題とを線で結び、結び付けた理由を考える話し合い活動を取り入れたことは、自分の追究結果と他の追究結果を意味や働きの面から関連付けて考え、個々の独立した学習課題同士の関係に気付くことに有効であったか

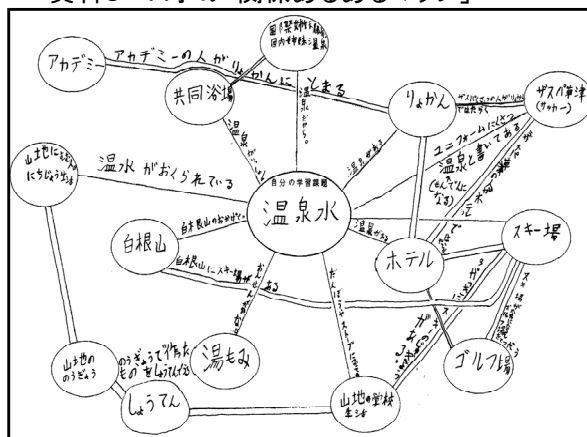
発表を聞きながら記入したプリント(資料1・資料2)を基に、まず一人で自分の調べたことと関係があると考えた学習課題を一線で結び、結び付ける理由を記入した。次に同じ学習課題を追究してきた者同士で話し合う中で、結ぶ線を増やしたり、違う理由を見つけたりした。さらに、他の学習課題同士を二線で結び、最後に学級全体で結び付くものを発表し合った。

A子は見通し1の段階で、自分の追究結果と関係のある追究結果を7個挙げていた。まずその7個と自分の学習課題とを一線で結び、結び付く理由を「関係あるあるマップ」に書き込んだ(資料3)。次に同じ学習課題を調べていた女

資料2 B男の学習プリント(一部)



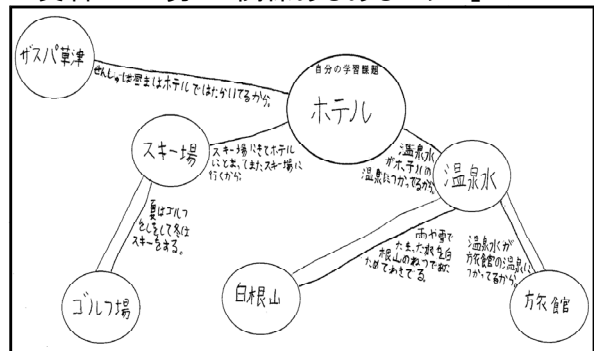
資料3 A子の「関係あるあるマップ」



の子と話し合う中で、関係ないと思っていた「温泉水」と「ザスパ草津」を「選手のユニフォームの背中に『草津温泉』という字が入っていて、試合をすることで温泉の宣伝になる」という理由で関連付けた。これは、ザスパ草津のユニフォームの背番号上に書かれた「草津温泉」という名前が草津温泉そのものを宣伝し、観光客を集める一つの広告としての意味や働きをもっているという面から「温泉水」と「ザスパ草津」を関連付けたことを意味している。また、「温泉水」と「山地の日常生活」を「温水が送られている」という理由で関連付けることができた。これは、高温の温泉水の熱を利用して冷水を50度程度の温水に熱変換し、一般家庭に生活用水として送ることで町民の日常生活を豊かにしているという意味において「温泉水」と「山地の日常生活」を関連付けていることを意味している。次に仲間の追究結果同士を全部で13本の＝線で結び、そのうちの7本を正確な理由で関連付けた。学級全体での話し合いの後、A子は特に意外だった結び付きとして「商店」と「山地の農業」（標高が700m以上の高地でないと栽培できない花インゲンを特産物として栽培し、それを土産物として商品化し温泉街の商店で販売しているという関連）、「ゴルフ場」と「スキー場」（冬季は積雪と寒さなどで営業できないゴルフ場はクロスカントリースキーのゲレンデとして利用され、職員はスキー場での仕事に従事するという関連）、「温泉水」と「ザスパ草津」（上述）、「音楽アカデミー」と「旅館」（草津音楽アカデミーに参加する人だけでなく、その演奏を聴きに来る人々の宿泊場所として旅館が利用されるという関連）の4つを挙げていた。

B男は見通し1の段階で、自分の追究結果と関係のある追究結果として「ザスパ草津」、「温泉水」、「白根山」の3個を挙げていた。ただこの時点では「白根山」については関係を明確にできなかった。まず、「関係あるあるマップ」の中心に自分の学習課題「ホテル」を記入し、その周りに「スキー場」「温泉水」「ザスパ草津」と書き込んだ(資料4)。「ホテル」と「温泉水」を「温泉水がホテルの温泉に使われるから」という理由で線を結んだのは、温泉水をホテルに引き、宿泊客にサービスとして提供できるから

資料4 B男の「関係あるあるマップ」



こそホテルとして営業が成り立つという意味をB男なりにとらえていることの表れである。また、「ホテル」と「スキー場」を「スキー場に来てホテルに泊まって、またスキー場に行くから」という理由で結んだのは、温泉を目的にホテルに宿泊する人だけでなく、スキーというレジャーを楽しむ人も宿泊しているという関連をとらえることができたからであると思われる。さらに「ザスパ草津」を「選手は昼間はホテルで働いている」という理由で結び付けたのは、アマチュアである選手は普段は草津町のホテル等で働きながらサッカーの練習をし、ホテル側はザスパ草津が強くなることで草津町自体のアピールにつながり、その結果観光客が増えてホテルの収益が上がるという関連をB男なりにとらえたからである。

その後、仲間同士の追究結果を関連付ける場面でB男はグループ内でじっくりと考え、「スキー場」と「ゴルフ場」を「ゴルフ場は夏はゴルフをしているが冬はスキーをするところになる」と関連付けた。スキー場とゴルフ場は季節に応じた使用形態を互いに工夫しているという関連をとらえられた。また、B男は見通し1の段階で学習プリント(資料2)に「白根山の熱でたまった水があつくなるとは知らなかった」と記入していたので、B男が「白根山」と「温泉水」の関係に気付くように、指導者が両者を指で結んでみると、「あっ、そうか。」と言って「雨や雪でたまった水が白根山の熱であたたまってわき出る」と書き始めた。活火山の白根山があるからこそ地下水が温められ温泉水がわき出ることに気付いた。さらに「温泉水」と「旅館」を結ぶ理由を「温泉水が旅館の温泉に使われているから」と書き入れることができた。学

級全体での話し合いの後、B男は「山地の学校生活」と「温泉水」（温泉水を熱変換して作った温水が学校の暖房に使われていること）の関係が特に意外だったと答えていた。

学級全体においても、児童によって関連付けられた数の差はあるが、自分の追究結果と他の追究結果とを意味や働きの面から関連付けて考え、個々の独立した学習課題同士の関係に気付いたと言える(表3・表4)。関連付けたものの中で児童にとって意外だったものは「ゴルフ場」と「スキー場」（8人）、「山地の農業」と「スキー場」（7人）、「ザスパ草津」と「温泉」「ホテル」（6人ずつ）などであった。玉村町では冬も麦を栽培し、ビニルハウスでは春菊栽培が盛んに行われているのに対し、冬の寒さが厳しい土地ではそもそも農業自体も営めず、冬季はスキー場で働かなければならないという意味における「山地の農業」と「スキー場」の関連に驚いたと思われる。

また、関連付けた数にばらつきがあるのは、追究した社会的事象によって、意味や働きの上で多くの社会的事象と関連付くものと、そうでないものがあるためである。

以上のように、自分の学習課題と他の学習課題とを線で結び、結び付けた理由を考える話し合い活動を取り入れたことで、自分の追究結果と他の追究結果とを意味や働きの面から関連付けて考え、個々の独立した学習課題同士の関係に気付くことができたと考えられる。

3 深める段階で、関連付けた追究結果から得た知識の裏付けを基にして、取り上げる社会的事象の将来像を考えて発表する活動を取り入れたことは、調べて考えたことを再構成し、社会的事象の意味や働きを多面的にとらえることに有効であったか

表3 自分の追究結果への関連付け(一線の数)

自分の追究結果と関連付けた数	人数
11個	1人
10個	2人
9個	0人
8個	1人
7個	5人
6個	6人
5個	6人
4個	4人
3個	7人
2個	3人
1個	4人
0個	0人

表4 仲間の追究結果同士の関連付け(二線の数)

15個以上	1人
10～14個	11人
5～9個	15人
1～4個	11人
0個	0人

いきなり「草津町の将来像」を考えようとするのではなく、前もって「次の時間は『みんなが調べてきた草津町が将来どのようなようになってほしいか』を考えておいて下さい。」と投げかけておいた。そして、見通し3の授業の初めの部分で「これまで調べてきた中で、これは良い工夫だとか、これからも続けてほしいな」と思うことを話し合った。話し合う中で、温泉水を使って温水を作り、日常生活に役立っていることが良さとして出された。反対に、強酸性の温泉のため、鉄などの金属の腐食が速いというマイナス面も指導者から付け加えた。

このあと一人一人が「将来の草津町」を文章や絵で表現した。このとき、自分が調べてきたことだけではなく、仲間が調べたことも取り入れて考えるとよいということを児童に話した。

A子は資料5のような将来像を描いた。A子はこれまで草津町の温泉水について調べ、その温泉水とどんなものが関連付いているかをとらえた上で(資料3)、温泉水のさらなる利用を願っていた。それは「温泉水はいろいろなことに使われているけれど、これか

資料5 A子の「草津町の将来像」

草津町は、温泉水をこれから
もいろいろのことにつかわれて
いくといいです。温泉水は、
いろいろなことに使われて
いるけれど、これからも、ず
っとわきでていて、草津町い
がいに、おくられたら、もっ
といいと思います。薬とかも、
これからできるといいです。
これからも、ずっと、わき出て、
りょうもふえるといいです。

からもずっとわき出ていて、草津町いがいにも送られたらもっといい」という記述から分かる。さらに、「草津町いがいにも」という言葉から分かるように、A子は温泉水の有効利用を草津町という一つの町だけでなく、他市町村という地域的な広がりの中でとらえ直している。草津町以外の地域にも目が向いたのは、見通し1の発表活動で温泉水と温水が草津町以外へは行っていないことを知ったからだと考えられる。このように、A子は自分の追究してきた「温泉水」を他地域への利用拡大という見方・考え方でとらえ直し、「温泉水」の活用で「日常生活」がより快適に、便利になってほしいという願いを込めて「温泉水」と「山地の日常生活」を自ら関連付けていると言える。

B男は将来像を絵で表した(資料6)。B男はこれまで草津町のあるホテルについて調べ中で、山だからこそとれる食材を生かしたホテルの料理にこだわっていた。また、取材の中で草津温泉が全国の温泉人気ランキングで1位であるという事実を知り、これからもそうあってほしいという願いをもっていた。そこで、たくさんの人が草津町に来るようにホテルの大きさを変え、山地ならではの料理を取り入れることを考えた。さらに「ザスパ草津」という仲間の発表から分かったことを取り入れて「ザスパ草津が強ければ客がいっぱい来て、帰りにホテルか旅館に客がいっぱい来る。」と書いている。このことからB男は自分が追究してきた「ホテル」に仲間が調べた「ザスパ草津」という追究結果を、スポーツチームも企業の広告塔になるという新たな見方・考え方をういて自ら関連付けていることが分かる。

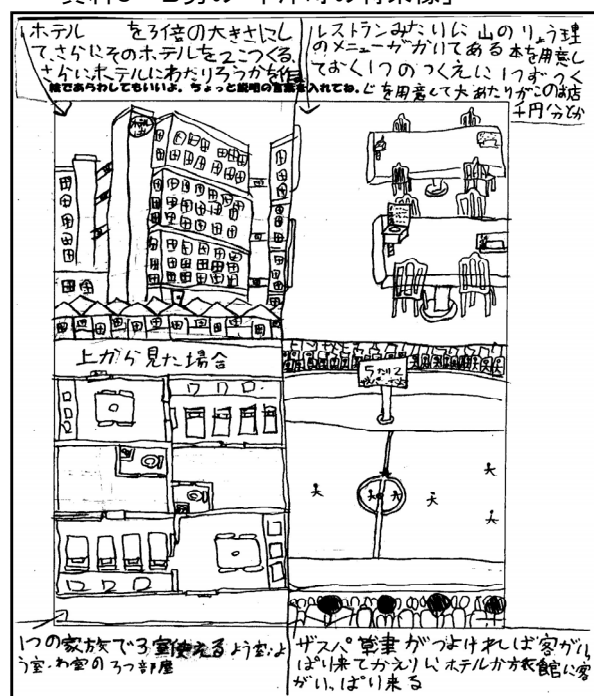
追究結果同士の様々な関連付けをとらえていたことが基になっているためであると考えられる。もちろん、仲間の追究結果との関連をとらえつつも、自分の追究結果にあえて結び付けずに今までとは違った見方・考え方でとらえ直すのも再構成の一つの形である。

表5 再構成の内訳(人)

自分の追究結果を今までとは違う見方・考え方でとらえ直した児童	5
自分の追究結果と仲間の追究結果を自分なりの見方・考え方で関連付けた児童	30
仲間の追究結果のみを自分なりの見方・考え方でとらえ直した児童	1
草津町に対する自分の願いのみを書いた児童	3

以上のように、関連付けた追究結果から得た知識の裏付けを基にして、取り上げる社会的事象の将来像を考えて発表する活動を取り入れたことで、調べて考えたことを再構成し、社会的事象の意味や働きを多面的にとらえることができたと考えられる。

資料6 B男の「草津町の将来像」



学級全体では、見通し2までの段階で新しく獲得した社会的なものの見方・考え方を使ったり、今までにもっていた別の見方・考え方を使ったりして草津町をとらえ直すことができていると言える(表5)。自分の追究結果と仲間の追究結果を自分なりの見方・考え方で関連付けた人数が30人と最も多いのは、見通し2の段階で

Ⅶ 研究のまとめと今後の課題

- 調べたことから考える活動を取り入れたことにより、児童は自分の追究結果と仲間の追究結果を比較して考え、意味や働きの上でどんな関連があるのかを明確にできた。また、関連付けた追究結果を基にして草津町の将来像を考えることにより、山地のくらし(観光に生きる草津町)を意味や働きの面から自ら多面的にとらえることができた。
- 学習課題を追究する視点を共有化するためには、社会的事象のどこに目を付けて観察・調査するかという指導を日頃から積み重ねていくことが大切である。一つ一つの単元で追究の視点を経験的に積み重ねていくことによって社会的なものの見方・考え方が広がっていくと考える。また、「○○に着目したから△△という意外な事実が分かった。」というように、追究の視点と追究結果とを結び付けていく指導の積み重ねも必要である。

〈参考文献〉

- ・波 巖 著 『発信型の新しい問題解決学習』 明治図書 (1999)